

### 神奈川県逗子市・葉山町長柄桜山古墳群の保存と整備・活用：住民参加によるボランティアパトロール事業の取り組みから

SUDA, Eiichi / 須田, 英一

---

(出版者 / Publisher)

法政大学多摩論集編集委員会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

TAMA BULLETIN / 法政大学多摩論集

(巻 / Volume)

38

(開始ページ / Start Page)

97

(終了ページ / End Page)

114

(発行年 / Year)

2022-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00025118>

# 神奈川県逗子市・葉山町長柄桜山古墳群の保存と整備・活用 — 住民参加によるボランティアパトロール事業の取り組みから —

須田 英 一

## 1. はじめに

史跡の保存と整備・活用は、全国的な展開を見せている。史跡は地域住民と様々な関わりを持つ文化遺産であるが、古墳は史跡の中でも城跡と共に、地域のシンボルとして地域住民の意識の中へのぼりやすい文化遺産の一つであり、地域においても中心的な遺跡となっている。

古墳時代について、研究の成果をまとめた『古墳時代の考古学』の第10巻は「古墳と現代社会」とタイトルを付し、「現代社会における古墳時代」・「古墳時代遺跡活用の未来像」・「古墳時代遺跡と博物館活動」といった項目を章立てとしている（一瀬・福永・北条編著2014）。こうした分野は、パブリック・アーケオロジー<sup>(1)</sup>と呼ばれ、考古学と現代社会との関わりを考えるうえで、重要な役割をなしていることから、考古学の一支脈を形成しつつある。パブリック・アーケオロジーの研究を推し進めている岡村勝行は、古墳と市民社会の関係の変遷について、文化財保護に関わる法や体制、遺跡調査の規模、マスメディアの動きを総合的に整理し、戦後期を中心に四期に区分している（岡村2014）<sup>(2)</sup>。坂井秀弥は岡村の「4期：活用・再生される古墳（1998～）」という時期に該当する現象を、「記録保存調査の減少に伴いそれに終始していた反省から、それまでの豊富な調査の蓄積を国民・住民に還元することの必要性が強く認識されるようになり、官から民の流れは、地域や住民の役割を重視した地域づくりを推進する新たな動きを生み、地域のシンボルとなる遺跡や文化財が注目されるようになった」と述べている（坂井2013）。

文化財の保存・活用は文化財保護法に基づき、従来は文化財所有者等の協力を得ながら、行政主導で行われてきた。近年、文化財として史跡の保存・活用に地

域社会の人々が非常に積極的に、かつ広範に支援を行っていかうという意識が高まってきている。その背景には1990年代の国の文化財政策の大幅な転換や、全国各地での文化財を活かしたまちづくりの実践、NPO法人等新たな文化財支援団体による保存・活用事業への参画等が挙げられる（馬場2001）。そのため、史跡の保存と活用を考えていく場合、地域社会に暮らす人々の理解と協力なくして史跡としての保存と活用は厳しくなっている（馬場2011）。

長柄桜山古墳群は、神奈川県南東部にある三浦半島の付け根付近、相模湾に面した丘陵上のピークに約500m離れて立地する、神奈川県内最大級の2基の前方後円墳からなる国指定史跡である（図1）。古墳群は1999（平成11）年に発見され、2002（平成14）年12月には国史跡に指定されるという動きが、まさに「4期：活用・再生される古墳（1998～）」に該当する遺跡である。また、特筆すべきは、古墳の発見に葉山町在住の考古学愛好家が関わっているという点である。そこで、行政に地域住民の参加が求められる中、史跡の保存と整備・活用に地域住民の参加が行われている事例<sup>(3)</sup>について、パブリック・アーケオロジーの観点から、古墳の保存・管理に市民参加によるボランティアパトロールを発見直後から導入している長柄桜山古墳群における具体的な事例を取り上げ、その内容について検討することとした。



図1 長柄桜山古墳の位置（逗子市教育委員会・葉山町教育委員会2011）

そのため本稿では、長柄桜山古墳群の発見と国史跡指定への経過、指定後の行政機関の動向を跡づけながら、国史跡となった古墳の歴史事象の地域社会への認識過程を明らかにすると共に、ボランティアパトロール事業と市民団体の動向を検討し、最後に今後の活用の展開について考えてみたい。

## 2. 長柄桜山古墳群の発見と国史跡指定への経過<sup>(4)</sup>

まず国史跡として指定されるまでの経過について述べていくことにする。

### (1) 緑地の保全と「ふれあいロード」

長柄桜山古墳群が位置する通称「桜山丘陵」と呼ばれる丘陵は、昭和40年代以降の宅地開発により地形が大きく改変されており、第1号墳東側まで葉山桜山団地の造成が及んでいる。しかし、古墳群の周辺一帯が各種法令に基づき開発行為に対する制限がかけられたことにより、都市近郊における貴重な緑地、樹林地として良好な自然環境が保全され、市民・町民の憩いの空間として親しまれてきている。一部逗子市域においては、史跡指定地内を東西に走るハイキングロードとして「ふれあいロード」が整備され、近隣住民やハイカー達に利用されてきた。

現在では、第1号墳の後円部山頂から東には東京湾を、第号墳前方部から西には相模湾から富士山を望むことができる。

### (2) 地域の考古学愛好家による埴輪片の採集

1999（平成11）年3月1日、葉山桜山団地の西方の丘陵山中で、携帯電話の中継所建設工事に伴って小規模な森林伐採が行われていた。その折、付近を偶然散策されていた葉山町在住の東家洋之助氏により、工事予定箇所から埴輪片が数点採集された。恵まれた自然環境に貴重な歴史遺産の価値が加えられた瞬間であった。

東家氏は1991（平成3）年に退職後、考古学に興味を持ち、発掘調査にも参加していた考古学愛好家である。1992年春頃より、夫婦で後に1号墳となる尾根に逗子市が新たに「ふれあいロード」と名付け、拡張整備した古道を散策していた。1994年秋には、キノコ採集の折には円墳を考え、その後には前方部らしい尾根の続きを見付け前方後円墳の存在を考えるようになっていたのである。

3月4日に東家氏は知り合いの横須賀市博物館学芸員に埴輪片採集を報告、地域の教育委員会に相談するよう指示を受け、逗子市教育委員会に向かい、面会した。5日には逗子市担当者は現地に向かい、葉山町・県教育委員会へも連絡した（東家2007）。

以上のように、考古学愛好家である東家洋之助氏が埴輪片を採集したことから、長柄桜山古墳群はその存在が行政機関や考古学研究者に知られるようになっていった。

### (3) 前方後円墳の可能性と遺跡台帳への登録

当該地はそれまで全く知られていない遺跡であったため、3月17日には県教育委員会、逗子市・葉山町両教育委員会により急遽現地踏査が行われ、工事予定地を含む丘陵尾根一帯が、全長約80m級の前方後円墳である可能性が高いことが判明した。県・逗子市・葉山町教育委員会は事業者と協議を重ね、事業者の理解と協力を得て、中継所建設工事は中止となった（佐藤2007）。

県内考古学研究者の踏査により、当該古墳からさらに500m西に離れた丘陵の地点にも、同様に前方後円墳の地形を呈する一角が存在することが指摘され、逗子市教育委員会を通じて県教育委員会にも伝えられた（田村2007）。

再度、県教育委員会は現地での踏査を実施、現況地形から墳丘地形を把握しがたく、遺物が未確認、古墳と即断する根拠を得られなかった。この時点で先に発見された古墳を（仮）1号墳、後に報告された古墳を（仮）2号墳と命名し、「（仮称）長柄・桜山古墳群」とし、3月末には1号墳が、7月には2号墳が県遺跡台帳へ登録された。

また、4月には後述するボランティアパトロールが開始され、7月には古墳群発見が新聞紙上で紹介され、人々にその存在が広く認識されるようになった。

このように、長柄桜山古墳群は県遺跡台帳へ登録されることにより、まず周知の埋蔵文化財包蔵地として、行政機関によってその存在が周知化されることになった。

### (4) 三者協議会の設置

同年4月中旬には、逗子市、葉山町は、神奈川県と共に「（仮称）長柄桜山古墳

群に関する三者協議会」が設置され、国指定史跡を目指す検討が開始された。

#### (5) 試掘調査・測量調査と国指定史跡を目指した範囲確認調査の実施

(仮称) 2号墳については、県・逗子市・葉山町の協議では、古墳であるかどうかを早急に判断する必要性が指摘された。県教育委員会は逗子市・葉山町教育委員会の協力を得て、同年6月に試掘調査を実施した。その結果、県内で現存する最大級の規模であり、葺石を伴う前方後円墳としては初の発見例であり、出土埴輪の年代から概ね4世紀後半に築かれた前期古墳であることが明らかとなった(神奈川県教育委員会2000)。

次に、両古墳の詳細な墳丘測量図の作成の必要性が出てきたため、同年7月に県教育委員会は(仮)1号墳の測量調査を実施した。引き続き、翌2000(平成12)年2月、(財)かながわ考古学財団により(仮)2号墳の測量調査が行われた(神奈川県教育委員会・(財)かながわ考古学財団編2001)。

県・市・町の三教育委員会では、国史跡の指定を受けることを目指し、両古墳の墳丘規模と範囲を正確に把握するための調査を実施した。同年4月～5月に、(財)かながわ考古学財団、により(仮)1号墳・(仮)2号墳の範囲確認調査が実施された。調査により、両古墳が墳長90m前後の古墳時代前期の前方後円墳であること、現存する古墳としては県内最大級の規模を有すること、いずれも壺形埴輪と円筒埴輪を有することが明らかとなった(神奈川県教育委員会・(財)かながわ考古学財団編2001)。

#### (6) 普及活動としての遺跡展及び関連シンポジウムの開催

2000年10月に(財)かながわ考古学財団主催により開催された「かながわの遺跡展2000 古墳登場」では、先の調査等の「速報展的な意味合い」もあり、長柄桜山第1・2号墳が紹介された(財)かながわ考古学財団編2000a)。また、同月に同じく(財)かながわ考古学財団主催による公開セミナーでは「かながわの出現期古墳を探る」が開催され(財)かながわ考古学財団編2000b)、白石太一郎により「東日本のなかの長柄・桜山第1・2号墳」と題した、両古墳の東日本、特に関東地方の前期古墳の中で占める位置についての特別講演が行われた。

このように、試掘調査・測量調査及び範囲確認調査を通じて学術的な価値が明

らかとなると共に、その成果が展示会や公開セミナーを通じて地域住民や県民に広く知られるようになっていった。

#### (7) シンポジウムの開催

国指定史跡の機運が盛り上がりを見せる中、2002（平成14）年12月15日には、逗子市・葉山町両教育委員会主催により葉山町福祉文化会館において「シンポジウム 前期古墳を考える－長柄・桜山の地から－」が、「古墳時代の専門家により、この時期の様相を列島規模で検討いただいて学術的な意義」を得て、「記念講演によって市民・町民をはじめとする一般の方々に本古墳の重要性を再認識」してもらうため、市長・町長も出席し開催された（逗子市教育委員会・葉山町教育委員会2002）<sup>(5)</sup>。

#### (8) 国史跡の指定

2002年7月には、「長柄桜山古墳群 第1・2号墳」として史跡指定申請書が文部科学大臣に提出され、10月の国の審議会で審議され、国の史跡にするよう答申がなされた。シンポジウム開催の4日後の12月19日に「文部省告示第202号」により官報告示が行われ、「長柄桜山古墳」として国指定史跡となった。これにより、文化財保護法により恒久的に保存されることが決定となり、埴輪片の発見から3年9ヶ月という極めて短期間で神奈川県内において初めての古墳の国指定史跡となった。

### 3. 長柄桜山古墳群の文化財指定とその後の動向

次に文化財指定後に行政機関によって取り組まれてきた動向について見ていくことにする。

#### (1) 整備基本構想の策定

2003（平成15）年4月には、先の三者協議会を発展させたものとして、県をオブザーバーとした「国指定史跡長柄桜山古墳群整備活用検討会」が設置された。史跡を取り巻く自然環境、社会環境等の各種条件を整理して『国史跡指定長柄桜

山古墳群整備基本構想』が策定され、今後の整備の基本的方向性が示された。

## (2) 指定記念講演会の開催

2003（平成15）年6月15日には、国史跡指定記念講演会として「未来に生かす史跡整備を考える」が開催され、小林三郎・本中 眞による記念講演が行われている（逗子市教育委員会・葉山町教育委員会2004）。

## (3) 文化財担当専門職員の配置

2004（平成16）年4月、葉山町では文化財担当専門職員が配置され、古墳時代を専門とする山口正憲氏が配置された<sup>6)</sup>。逗子市教育委員会では、1995年6月に文化財担当専門職員として佐藤仁彦氏が配置されている。

## (4) 調査指導委員会の設置と公有地化

2004年5月には、3名の考古学研究者による「国指定史跡長柄桜山古墳群調査指導委員会」が設置され、今後の整備に必要な地下遺構の情報収集を目的とした発掘調査について検討が開始された。

2004・2005（平成17）年度の2ヶ年で指定地内民有地の公有地化が完了したため、2006（平成18）年度から発掘調査に着手し、2009（平成21）年度には第1号墳の史跡の保存及び整備の内容を考える上で必要な地下遺構の情報収集を目的とした調査を終了し、墳丘の構造や埴輪等に関する貴重な成果を挙げた（逗子市教育委員会・葉山町教育委員会編2012）。

## (5) 整備基本計画策定委員会の設置と整備基本計画書策定

2008（平成20）年度には、考古学や自然科学の学識者の他、市民・町民、行政職員で構成される「国指定史跡長柄桜山古墳群整備基本計画策定委員会」が設置された。委員会では基本的な整備内容や手法等について検討された。

2011（平成23年）3月に、「国指定史跡長柄桜山古墳群整備基本計画書」が策定された（逗子市教育委員会・葉山町教育委員会2011）。



## (6) 整備協議会と整備検討会の設置

2011年6月1日、整備基本計画書が策定されたことから、「整備基本計画の進捗管理及び調整、保存と活用に関する調査及び検討」に関する必要な協議を行うため、「逗子市・葉山町国指定史跡長柄桜山古墳群整備協議会」が設置された。

同時に「保存と活用に向け、様々な分野の学識経験者を有する者等から広く意見を聴取し、地域に根差した史跡整備の実現に資するため」、「国指定史跡長柄桜山古墳群整備検討会」が設置された。

こうして、「整備協議会」を行政的に親会と位置付け、「特定の課題について調査及び検討」を行う「整備検討会」が組織的に整備された。

## (7) 史跡整備事業

史跡整備事業は2012（平成24）年度から開始され、第1号墳について2012・2013年度は修景整備として伐採工が行われた。2014（平成26）年度からは遺構保存として植栽工が2020（令和2）年まで継続的に行われている。2021（令和3）年度は遺構表示として主体部表示・埴輪表示をはじめ、墳頂部の舗装工、説明版・名称版が設置される。引き続き2023（令和5）まで、事業は継続される予定である（写真1）。



写真1 1号墳整備状況（写真提供 葉山町教育委員会）

#### 4. ボランティアパトロール事業と市民団体の動向

ここでは、長柄桜山古墳群のボランティアパトロール事業と、古墳群に関わって保護活動を展開する市民団体の動向について述べる。

##### (1) ボランティアパトロール事業の展開<sup>(7)</sup>と事業実施要領の作成

###### ①ボランティアパトロール事業の開始と展開

ボランティアパトロールは県教育委員会の要請等もあり、その主導により古墳発見直後から地域住民の有志で開始されたようである。「(仮称)長柄・桜山古墳群」と命名された後の1999年4月には、古墳の発見者である東家氏を中心に地域住民有志によりボランティアパトロールが行われている。4月～年7月は県教育委員会の管理のもと、2名×4班の8～10名体制で、8月～翌々2001(平成13)年3月にはかながわ考古学財団の管理のもと、同じく2名×4班の8～10名体制で継続して行われている<sup>(8)</sup>。

この間の2000(平成12)年2月には、後述のように、こうしたボランティアパトロールを母体とした「長柄桜山古墳をまもる会」が設立されている。

2001年4月中旬になると、ボランティアパトロールが一時的に行政側の事情により中止されたが、長柄桜山古墳をまもる会で自主継続されている。そして、6月からは長柄桜山古墳をまもる会の会員を募り16名で6チームを編成して翌2002(平成14)年3月末まで継続されている。以上の期間は予算措置等はなく、事業化されたものではなかったようである。

2002年3月には、新しいボランティアパトロールのシステム説明会が、葉山町逗子市合同で行われた。後述の「長柄・桜山第1・2号墳パトロール事業実施要領」が4月より施行されている。

これ以降、実施要領に基づき逗子市・葉山町の事業として行われることとなった。2002年12月には国史跡指定もなされる中、4月～2003(平成15)年3月は逗子市・葉山町の管理のもと、10～15名×6班の60名体制で、4月～2004(平成16)年3月は逗子市・葉山町の管理のもと、14～18名×5班の82名体制で、4月～2007(平成19)年は逗子市・葉山町の管理のもと、18～20名×5班の94名体制で行われた。

「古墳パトロール分担表」が年度毎に作成され、週内の班による担当は決定し

ているが、随時行われている。現在は5班体制で実施されており、逗子市は3班で構成され、1班の12名、3班の11名、5班の12名であり、葉山町は2班の11名、4班の14名となっている<sup>(9)</sup>。2班と4班は合同でパトロールを実施している。メンバーには「長柄・桜山古墳をまもる会」の会員も入っている。

2020（令和2）年度の実績としては、これら全4班で71回のパトロールが実施され、延べ212人が参加しており、1回平均では2.99人が活動している<sup>(10)</sup>。

年度末には、「古墳パトロール連絡会」が開催され、各班長・副班長が主に出席し、逗子市と葉山町の連絡調整が行われている。

## ②事業実施要領の規定と内容

次に、「長柄・桜山第1・2号墳パトロール事業実施要領」の内容を紹介し、どのように事業が実施されているか見ていくことにする。

この要領では、パトロール事業の目的（第1条）、用語の定義（第2条）、登録（第3条）、パトロールの方法（第4条）、報告書の提出（第5条）、ボランティア保険の加入（第6条）、貸与品（第7条）、特記事項（第8条）、委任（第9条）の各事項が規定されている。

事業の目的としては、古墳の「現状把握と損壊、盗掘等の防止のため」として（第1条）。「古墳とその周辺を巡回して、現状を把握し、以上の有無を確認し、町に報告すること」を「パトロール」と規定している（第2条）。また、実際にパトロールを行う「パトロール員」とは、「葉山町教育委員会で登録をした者が、無報酬で自主的に古墳のパトロールを実施する者」で（第2条）、登録は「町が指定する期日までに申請書を提出すること」で登録され、その登録期間は「毎年度4月1日より3月31日まで」であるが、「辞退の申し出がない限り、毎年度自動更新」される。そして「パトロール員登録証」が発行され（第3条）、パトロール実施時に携帯することとなっている（第8条）。

パトロール員は班編成により、週番制で週1回のパトロールを担当し、順次担当を引き継いでいく。班ごとに班長を定め、巡回する日時は、班の自主的の判断に委ねられ、ルートは町が定める回るルートとされている。別途「パトロール経路図」が定められている。方法としては、古墳とその周辺および散策路を巡検し、以上が認められる場合、生涯学習課へ通報するとされる（第4条）。また、パトロールの際に確認した異常の有無については、「パトロール報告書」に記載し、毎

月1回前月分の報告書を取りまとめ生涯学習課へ提出することになっている（第5条）。パトロール員は、町の負担によりボランティア保険に加入することとされている（第6条）。そして、パトロールに際しては、様式で定められた腕章等が貸与される（第7条）。当初は野帳等の消耗品の予算化がなされていたが、現在では予算措置はなされていない。

以上のように、2002年4月以降は「実施要領」に基づき、地域住民との密接な関係の中で古墳群のボランティアパトロール事業が展開されていると言える(写真2)。



写真2 パトロール風景（写真提供 葉山町教育委員会）

## (2) 保存・活用に関わる市民団体の動向<sup>(11)</sup>

2000（平成12）年2月に「長柄・桜山古墳をまもる会」が、パトロール隊を母体として個人会員37名、団体・法人会員2名により設立されている。設立までの経緯を見てみると、1999年7月に新しい会「古墳を守る会」の構想が練られ、9月には行政機関との調整が行われている。10月には新会設立の草案が纏まり、12月には会の発起人が人選され、2000年1月に発起人会が開催されている。3月には会報「古墳」1号が発行された。

会則によれば、会の目的は「地域の歴史と文化を継承する活動を行う」と明記され、主な活動としては古墳案内活動、研修活動、会報の発行、古墳パトロール、その他の活動がある。古墳案内活動は会員の有志でガイドグループを結成し、主に逗子市・葉山町内の小中学校の児童・生徒に対して古墳案内を行ったり、社会

人のグループ向けの案内も依頼に応じて実施している。研修活動としては講演会と見学会があり、講演会は会員および一般市民に向けて年1~3回、講演会を開催し古代史を学ぶ他に、自主学習会「古代史サロン」を年3回程度開催しており、参加者が自由に楽しく語りあう、気楽な意見交換会となっている<sup>(12)</sup>。見学会は年1回会員および一般市民が参加し、バスを利用した県内外の古墳・遺跡見学会を行うものや、博物館や発掘調査現場説明会等企画に合わせて見学会を実施されている。会報の発行は、会員向け会報「古墳便り」を年7~8回発行しており、2021年9月現在で52号を数えている。古墳パトロールは、前述のボランティアパトロール事業に主要メンバーとして参加しており、やりがいを持って実施している状況が伺える<sup>(13)</sup>。その他の活動としては、教育委員会の古墳関連事業に協力、葉山まちづくり展に参加協力、その他必要に応じて活動が行われている。

2020年には設立20周年を迎え、2021年4月現在で個人会員は58名、団体・法人会員は10団体となっており、発見者の東家氏は相談役を務めている。会員は逗子市・葉山町を主体に、鎌倉市・横須賀市・横浜市等の住民から構成されている

以上のように、古墳パトロール活動と共に、研修活動を通じて自己研鑽を積みながら、広く地域住民や小中学校の児童・生徒を対象に啓蒙的な活動が意欲的に実施されていることがわかる。

## 5. おわりに

以上、神奈川県内最大級の2基の前方後円墳からなる国指定史跡である長柄桜山古墳群について、発見と国史跡指定への経過、指定後の行政機関の動向を跡づけながら、国史跡となった古墳の歴史事象の地域社会への認識過程を明らかにすると共に、ボランティアパトロール事業と市民団体の動向を検討してきた。ここでは、それらを簡単に要約し、最後に今後の活用の展開について言及し結論としたい。

発見前の古墳群の周辺一帯は、各種法令に基づき開発行為に対する制限がかけられたことにより、都市近郊における貴重な緑地、樹林地として良好な自然環境が保全され、市民・町民の憩いの空間として親しまれてきており、一部逗子市域

において、「ふれあいロード」が整備され、近隣住民やハイカー達に利用されてきた。1999（平成11）年3月、その地で考古学愛好家である東家洋之助氏が埴輪片を採集したことから、長柄桜山古墳群はその存在が行政機関や考古学研究者に知られるようになっていった。直後の現地踏査により、県遺跡台帳へ登録されることにより、まず周知の埋蔵文化財包蔵地として、行政機関によってその存在が周知化されることになった。7月には新聞紙上で紹介され、人々にその存在が広く認識されるようになった。

その後の試掘調査・測量調査と、国指定史跡を目指した範囲確認調査の実施を通じて、両古墳が墳長90 m前後の古墳時代前期の前方後円墳であること、現存する古墳としては県内最大級の規模を有すること、いずれも壺形埴輪と円筒埴輪を有することが明らかとなった。

2000（平成12）年に入ると、普及活動としての遺跡展及び関連シンポジウムの開催を通じて、古墳の内容が地域住民や県民に広く知られるようになっていった。国指定史跡への機運が盛り上がりを見せる中、2002（平成14）年12月には、逗子市・葉山町両教育委員会主催によりシンポジウムが開催され、4日後の12月19日に官報告示が行われ、「長柄桜山古墳」として国指定史跡となった。埴輪片の発見から3年9ヶ月という極めて短期間で神奈川県内において初めての古墳の国指定史跡となったのである。

これ以降長柄桜山古墳群は、専門職員の配置、関連シンポジウムの開催、史跡の公有地化、委員会の設置、基本計画書の策定、環境整備等、行政機関を中心に文化財の保存・整備が行われた。

そのような状況の中であって、県教育委員会の要請等もあり、その主導により古墳発見直後の1999年4月から、古墳の発見者である東家氏を中心に地域住民有志でボランティアパトロールが開始された。2000年2月には、このボランティアパトロールを母体とした「長柄・桜山古墳をまもる会」が設立され、保存と活用を視野に入れた活動が開始され、行政当局へ長柄桜山古墳群の保存と活用についても積極的な関わりが行われた。現在も会の活動は活発に継続されている。2002年4月には「長柄・桜山第1・2号墳パトロール事業実施要領」が施行され、逗子市・葉山町の管理のもと新たな体制でボランティアパトロールが実施され、現在まで継続されている。

まちづくりの分野では、住民参加が手法の一つとして考えられるようになったが、その一環として地域住民の古墳パトロールへの参加の考え方も生まれたと思われる<sup>(14)</sup>。地域住民がこうした手法で史跡に関わることは、住民にとって、また地域にとっても必要とされる場が創出されることにつながる。パトロールを通じて史跡を良い状態に保っておくことが、自分達にもできるというという自身にもつながり、ボランティアは地域と古墳をつなげるファシリテーターとしての役割も担っていくことになり、古墳案内等を通じてその関係作りに一役をかつている。

史跡は利用者と近隣住民とではその捉え方が異なる。パトロールを通じて地域社会のありようが見えてもくることもあるだろう。また、史跡への働きかけを通じて、場との個人的な関わりも形成されてくるであろう。整備事業はまだ継続されるが、今までに培われたマンパワーを活かしたイベント的活用や、植栽・草刈り等新たな事業展開に期待したい。さらに、地域の宝を子ども達に伝えていくことは、自分達が住む街や地域への関心を高め、郷土に対する関心を促す契機となることから、学校教育との関わりも必要と考える。

史跡は観光資源としての史跡、歴史教材としての史跡、地域住民のアイデンティティーとしての史跡、住民の憩いの場としての史跡等、多様な価値観を持っている。史跡長柄桜山古墳の保存と整備・活用は、史跡の保存・公開にとどまるものではなく、逗子市・葉山町のまちづくり、地域文化の創造に大きく寄与するものとなる。史跡に関わることにより、史跡は住民の生活の場として生きた存在になっていくはずである。歴史遺産を中心とした豊かな地域文化の創造が図られることを期待し、本稿のまとめとしたい。

謝辞 最後になりましたが、山口正憲氏（葉山町教育委員会）、佐藤仁彦氏（逗子市教育委員会）には、聴き取り・資料の提供をはじめ、多方面にわたりご教示を頂きました。また、前川和正氏（長柄・桜山古墳をまもる会）には会の活動内容等に関してご教示頂きました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

## 注

- (1) パブリック・アーケオロジーは、松田陽と岡村勝之により「考古学と社会の関係」を研究し、その成果にもとづいて両者の関係を実践を通して改善する試

- み」と定義されている（松田・岡村2012）。
- (2) 「1期：不可侵の古墳（1949年以前）」、「2期：参画される古墳（1950～71）」、「3期：報道される古墳（1972～97年）」、「4期：活用・再生される古墳（1998～）」となっている。
  - (3) 神奈川県内における先行研究について見ると、史跡の保存については柘淵規彰（2004）、柘淵彰太郎（2015）の論考があり、古墳に限定した今野まりこの論考（2017）もある。また、史跡のボランティア活動については、橋口豊が三殿台考古館のボランティア活動についてまとめ（橋口2014）、筆者が相模原市文化財調査・普及員について報告した（須田2014）。
  - (4) 記述については、神奈川県教育委員会・助かながわ考古学財団編（2001）、逗子市教育委員会・葉山町教育委員会（2011）の記述を参考に、長柄・桜山古墳をまもる会（2007）に寄せられた回想文も参考にした。
  - (5) 2004年3月に記録集が刊行されている（逗子市教育委員会・葉山町教育委員会2004）。
  - (6) 葉山町では、2000年度より神奈川県教育委員会派遣の伊丹 徹氏が着任し、2002年度末まで3ヶ年勤務している。その後2003年度には臨時的任用職員として桜井浩司氏が着任している。
  - (7) ボランティアパトロール事業の動向については、「長柄・桜山古墳をまもる会」より記念誌が2冊刊行されており（長柄・桜山古墳をまもる会2007・2020）、記述はこれらを参照した。
  - (8) 2000（平成12）年2月には助かながわ考古学財団により（仮）2号墳の測量調査が行われ、4月～5月には（仮）1号墳・（仮）2号墳の範囲確認調査が実施されている時期であり、現地の調査者に管理が委ねられていたと思われる。
  - (9) 葉山町では30名を上回る時期もあったようであるが、現在では登録が20名を切っている（山口正憲氏のご教示による）。
  - (10) 山口正憲氏のご教示による。
  - (11) 「長柄・桜山古墳をまもる会」については、記念誌が2冊刊行されており（長柄・桜山古墳をまもる会2007・2020）、記述はこれらを参照した。また、活動内容についてはホームページを参照した。記念誌には会に関わった識



者の声が寄せられ、会員の声、子供たちの声、会の活動の様子等が掲載され、活発な会の活動内容を伺うことができる。

- (12) 筆者も2021年7月10日に葉桜自治会館で開催された「第20回古代史サロン」において、「三浦半島の考古学のはじまりの物語」と題して会員の前でお話しをする機会を得た。
- (13) 会誌に「古墳パトロールを続けることでパトロール隊員は、郷土の歴史に対して興味を増進させたこと、古墳と周辺がいつもきれいになったこと、古墳の保存に大きな力を発揮していることなど、地元の熱意を表しています」と記されている（長柄・桜山古墳をまもる会2007）。
- (14) 相模原市では「文化財調査・普及員設置要綱」に基づき、指定・登録等の文化財のうち、屋外にある史跡・建造物・彫刻・板碑について、現状の変更・破損・落書き等の異常の有無を確認する「文化財パトロール」が、6班体制で、9月・3月の年回実施されている（須田2014）。

#### 参考文献

- 一瀬和男・福永信哉・北条芳隆編著 2014 『古墳時代の考古学 10 古墳と現代社会』同成社
- 岡村勝行 2014 「古墳時代と市民社会」一瀬和男・福永信哉・北条芳隆編著『古墳時代の考古学 10 古墳と現代社会』同成社
- 神奈川県教育委員会 2000 「逗子市・葉山町 長柄・桜山第2号墳の試掘調査」『神奈川県埋蔵文化財調査報告』42
- 神奈川県教育委員会・(財)かながわ考古学財団編 2001 『長柄・桜山 第1・号墳一測量調査・範囲確認調査』神奈川県教育委員会・(財)かながわ考古学財団編
- (財)かながわ考古学財団編 2000a 『かながわの遺跡展2000 古墳登場』(財)かながわ考古学財団
- (財)かながわ考古学財団編 2000b 『平成11年度 発掘調査成果発表会・公開セミナー かながわの出現期古墳を探る』(財)かながわ考古学財団
- 今野まりこ 2017 「神奈川県内における古墳の保存と活用について」山本暉久編『山本暉久先生古稀記念論集 二十一世紀考古学の現在』六一書房
- 坂井秀弥 2013 「遺跡調査と保護の60年」『考古学研究』60-2

- 佐藤仁彦 2007 「当初のこと」 長柄・桜山古墳をまもる会『よみがえれ1600年！ 長柄桜山古墳群－発見からのあゆみ－』長柄・桜山古墳をまもる会  
逗子市教育委員会・葉山町教育委員会 2002 『シンポジウム 前期古墳を考える－長柄・桜山の地から－』逗子市教育委員会・葉山町教育委員会  
逗子市教育委員会・葉山町教育委員会 2004 『シンポジウム 前期古墳を考える－長柄・桜山の地から－・国史跡指定記念講演会－未来に活かす史跡整備を考える－』逗子市教育委員会・葉山町教育委員会  
逗子市教育委員会・葉山町教育委員会 2011 『国指定史跡長柄桜山古墳群 整備基本計画書』逗子市教育委員会・葉山町教育委員会  
逗子市教育委員会・葉山町教育委員会編 2012 『国指定史跡長柄桜山古墳第1号墳発掘調査報告書－史跡整備に伴う発掘調査－』逗子市教育委員会  
須田英一 2014 「史跡・博物館の活用と地域住民の参加意識－相模原市文化財調査・普及員のアンケート調査から－」『相模原市文化財年報 平成25年度の成果』相模原市教育委員会  
田村良照 2007 「長柄・桜山古墳号墳発見によせて」長柄・桜山古墳をまもる会『よみがえれ1600年！ 長柄桜山古墳群－発見からのあゆみ－』長柄・桜山古墳をまもる会  
東家洋之助 2007 「長柄・桜山古墳 1号墳発見の経緯」長柄・桜山古墳をまもる会『よみがえれ1600年！ 長柄桜山古墳群－発見からのあゆみ－』長柄・桜山古墳をまもる会  
長柄・桜山古墳をまもる会 2007 『よみがえれ1600年！ 長柄桜山古墳群－発見からのあゆみ－』長柄・桜山古墳をまもる会  
長柄・桜山古墳をまもる会 2020 『まもり、伝えて、未来へ 長柄桜山古墳群－発見から20周年－』長柄・桜山古墳をまもる会  
橋口豊 2014 「三殿台考古館におけるボランティア活動報告」『横浜市歴史博物館紀要』18  
馬場憲一 2001 「日本における文化遺産の活用と地域づくり－1990年代の文化財政策との関わりの中で－」『現代福祉研究』創刊号  
馬場憲一 2011 「史跡の保護と地域社会との関わり－国史跡滝山城跡を事例として－」『日本歴史』752

須 田

- 栢渕彰太郎 2015 「神奈川県内の遺跡の保護と博物館」青木豊・鷹野光行編  
『地域を活かす遺跡と博物館－遺跡博物館のいま－』同成社
- 栢渕規彰 2004 「神奈川県内の史跡とその整備活動について」逗子市教育委員会・葉山町教育委員会『シンポジウム 前期古墳を考える－長柄・桜山の地から－・国史跡指定記念講演会－未来に活かす史跡整備を考える－』逗子市教育委員会・葉山町教育委員会
- 松田 陽・岡村勝行 2012 『入門パブリック・アーケオロジー』同成社